

質問事件	質問の要旨
福祉問題について	<p>1 障がい者福祉について</p> <p>三沢市は、三沢市第5期障害福祉計画及び三沢市第1期障害児福祉計画に基づき各種事業を推進しているが、三沢市の障がい者福祉の取組に関して、次の点について伺う。</p> <p>(1) 市民の皆様等に対する障がいへの理解促進に係わる三沢市の取組について伺う。</p> <p>(2) 本年4月に、障害者雇用促進法の一部が改正され、国・地方公共団体では、法定雇用率が2.5%に引き上げられました。三沢市役所の過去5年間の障害者雇用数と法定雇用率について伺う。</p> <p>2 認知症施策について</p> <p>三沢市は、本年3月に三沢市高齢者福祉計画、第7期介護保険事業計画等を策定し、各種施策を推進しているが、認知症施策に関して、次の点について伺う。</p> <p>(1) 2016年に配置された認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームの運営状況について伺う。</p> <p>(2) 認知症に対する知識の普及・啓発に関して、小中高校生及び企業に対する認知症の理解と普及に関する市の取組について伺う。</p> <p>(3) 認知症の方が行方不明になった場合、SOSネットワーク「あんしんねっと」を構築しているが、これまでの実績について伺う。</p>

質問事件	質問の要旨
行政問題	<p>1. 防犯灯のLED化について</p> <p>地球温暖化や高騰してきた電気料金に対応するため、環境面や経済面、維持管理面で優れているLED灯への交換について、以下3点をお伺いします。</p> <p>①市の管理する防犯灯は何灯であるか。また年間の電気料はいくらか。</p> <p>②LED化した場合、コスト削減はどの程度と見込まれるか。</p> <p>③市内全域のLED化への今後の見通しについて、お伺いします。</p> <p>2. フードドライブの取り組みについて</p> <p>フードドライブとは、家庭で余っている食品を持ち寄り、食品を必要とする福祉団体などに提供する活動です。食品ロスの抑制と社会福祉の両方に貢献するものであることから、積極的に取り組むべきと考え、本市のご見解をお伺いします。</p> <p>3. エンディングノートについて</p> <p>自分にもしものことがあった時、残された家族が困らないように伝えておきたいことをまとめておくのが、エンディングノートです。人生の最後を見据えながら、自分らしく生きる「終活」の浸透とともに、自分の生と終わりを書き綴るエンディングノートがクローズアップされており、導入に向けて本市のご見解をお伺いします。</p>
教育問題	<p>1. 子どもたちへの学習支援について</p> <p>学校応援団による学習支援として、放課後等に個別の学習支援活動を実施している自治体が増えていることから、導入に向けて本市のご見解をお伺いします。</p> <p>2. 学校における救命教育について</p> <p>学校における心肺蘇生教育の重要性については、認識が広がりつつあるものの、全国における状況を見ると、非常に低い状況にあると言われていいます。そこで本市の実施状況をお伺いします。</p> <p>3. 通学時の荷物への対応について</p> <p>通学時の荷物が重すぎると心配の声が届いていることから、国においても適切な指導を求めていく方針です。そこで、市内小・中学校の荷物の実状と対応策をお伺いします。</p>

質問順位 4

議席番号 3番

氏名 佐々木 卓也

質問方式 一問一答 質問時間 10分

質問事件	質問の要旨
1. 地域公共交通の将来像について	<p>将来にわたって市民の生活を支える持続可能な地域公共交通体系の構築に向けた取り組みを定める「三沢市地域公共交通網形成計画」が平成28年3月に策定されましたが、その進捗状況と最終的に目指す地域公共交通の将来像についてお伺いします。</p>
2. 三沢市立第五中学校の姉妹校交流への支援について	<p>三沢市立第五中学校と台湾台北市立天母国民中学は2000年に交流を開始し、翌年姉妹校締結し、18年間の交流を続けてきました。今年も7月に、天母中から生徒22名、校長・保護者をはじめ学校関係者20名が三沢市を訪れ、市長表敬訪問、五中生徒との交流やホームステイなどを通じて友好を深めました。</p> <p>そこで、この「18年」という歳月の重さを将来の発展に向けた大きな礎として、この交流により醸成されてきた国際理解教育の環境を、今後も子どもたちが享受できるよう、交流継続の中で困っていることを行政として支援していく必要があると考えます。</p> <p>三沢市が支援することが交流継続の力強い後押しとなり、認知度が高まり、ひいてはこの交流が市内の全中学校に広がり、安定的な交流継続と国際理解教育の推進が大いに期待されると考えます。</p> <p>市のご見解をお伺いします。</p>

質問順位 5

議席番号 8番

氏名 加澤 明

質問方式 一問一答 質問時間 10分

質問事件	質問の要旨
市長の政治姿勢について	<p>種市市長は平成19年6月17日に初就任以来、連続3期の当選を果たし12年目を迎えております。市長はこの間「独掌鳴らず」の精神を唱え、市民と共に歩む政治姿勢を重視して市政運営をされてきました。</p> <p>しかし、それは苦難の道の始まりでもありました。初就任の平成19年度市財政の実質公債費比率は20%（25%を超えると起債が制限される）もあり、近い将来は赤字も予想されるほどでした。また、平成23年3月11日には東日本大震災が発生し当市においても甚大な被害を受けるなど、険しい道のりだったと思います。</p> <p>そのような中、市民目線の数々の政策を打ち出し推進して成功させているのも、紛れも無い事実であります。</p> <p>そこで、質問いたしますが、市長ご自身が今までの市政運営をどのように思い評価され、来年の6月16日の任期満了までの10ヶ月余りの政治運営をどのように推進するのか伺います。</p> <p>また、来年6月の次期市長選についても直前の政治判断よりも、市民の為に市政運営の安定を考えるなら、今この時期に英断される事が望ましいと考えられますが、市長の次期市長選に向けた御意志をお伺い致します。</p>